

みらいステージ

多目的ホール

開会式

6月7日(土) 10:10~10:40

主催者挨拶(概要)

農林水産大臣政務官 山本 佐知子

本日、第20回食育推進全国大会が「食の力は無限大、徳島から未来へつなぐ食育」をテーマに盛大に開催されますこと、農林水産省を代表してお祝い申し上げます。

まず、後藤田知事をはじめ、本日まで臨席の皆様には、日頃より食育の推進にご支援を賜り、心より御礼を申し上げます。また、開催にご尽力いただいた関係者の皆様にも、重ねて感謝申し上げます。

平成17年に食育基本法が制定されて以降、今年で20年になります。この節目の年に、その制定に最もご貢献いただいた後藤田知事のもと、この徳島県で全国大会が開催される意義を、私たちも大変感慨深く感じております。

昨年、食料・農業・農村基本法が改正され、食料システムにおける消費者の役割が改めて重要となってまいりました。こうした中、健全な食生活の実践とともに、生産現場への理解を深める食育はますます重要です。

今後は、お子さまたちへの食育を一層強化するとともに、学校を卒業した方々に対する「大人の食育」を推進いたします。あわせて、食卓と生産現場の距離を縮める取組を拡大するなど、食育の強化を私たちも図ってまいりたいと考えております。



また、この後、表彰を受けられる皆様には心よりお祝いを申し上げますとともに、日頃の活動に深く感謝申し上げます。

結びに、この大会が皆様にとって貴重な学びの場となり、全国で食育の取組がますます進むことをご祈念申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

みらいステージ 司会進行

四国放送
アナウンサー
森本 真司 氏



つなぐステージ 司会進行

エフエム徳島
パーソナリティー
近藤 公美 氏



みらいステージ

多目的ホール

主催者挨拶(概要)

徳島県知事 後藤田 正純

皆さんこんにちは。今日という日を本当に待ち望んでおりまして、大変感慨深い大会でございます。

今回の大会開催にあたり、我々は食に関する「8つのテーマ」を掲げました。

まずは「フードセキュリティ(食料安全保障)」。農業従事者が減る中で、いかに食を安定供給していくか。それを支えるのが「フードテクノロジー(食の新技术)」です。冷蔵技術などを活用し、課題解決に繋がります。もちろん「フードセーフティ(食品の安全安心)」や「フードロス(食品ロス削減)」の問題も重要です。そして「フードダイバーシティ(食の多様性)」。アレルギーやビーガン、宗教にも対応せねばなりません。ありがたいことに徳島は、ハラール認証牛肉のマレーシア向け輸出でほぼ100%の実績があり、今後さらに展開してまいります。また「健康」、「フードカルチャー(食文化)」を大切に、みんなで「エンジョイフード(食を楽しむこと)」。この8つのテーマが、今後の食育に活かされることを期待しています。

最後になりますが、イベントは準備が8割です。本日の開催にあたり、大変な準備をされた関係者の皆様、そして県庁職員に心から感謝を申し上げます。



そして今日は豪華なご来賓の先生方にもお越しいただき、本当に心強い限りです。

参加者の皆さん、そして表彰を受けられる方々にも心から敬意を表します。この2日間、どうぞ楽しんでください。ありがとうございました。

来賓祝辞(概要)

参議院議員 山東 昭子 氏

皆様、こんにちは。20年前、食育基本法制定の際に先頭に立って答弁された後藤田知事と、当時裏方で野党の皆様のところを回っておりました私、その二人が揃ってこの食育推進全国大会を迎えられることを、心からお喜び申し上げます。また、本日受賞される皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

徳島は、古事記に登場する食を司る女神「オオゲツヒメ」の地であり、まさに「食の源」でございます。また、徳島の農家の女性たちが始めた「葉っぱビジネス」が、日本料理の味わいを一層深め、レベルアップさせたという素晴らしい食文化もあります。

さて、食育基本法制定後20年。今、私どもは「大人の食育」を次の大きなテーマとして掲げ、第5次の食育基本計画の提言に盛り込むべく、まさに議論をまとめている最中でございます。

かつては「美味しいものはカロリーが高くて体に良くない」という時代もありましたが、これからは「美味しくてヘルシー」な食べ物を追求する時代です。栄養の問題にも、もっと目を向けていかなければなりません。

後藤田知事の肝いりで開催されたこの大会が、日本の食育の基本を多くの方々に味わっていただける素晴らしいものとなりますよう、心から願っております。自民党食育調査会の会



長としましても、これからも皆様のお手伝いをしてまいりますことをお約束申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

みらいステージ

多目的ホール

来賓祝辞(概要)

衆議院議員 土屋 品子 氏

皆様こんにちは。この第20回徳島大会、本当に大勢の方が集まっていて、衆議院議員時代、食育やフードロスの問題で共に汗をかいた仲間が、この意義ある大会を実現されたこと、さすがだなと心から感謝申し上げます。

さて、先ほど山東先生からもお話がありましたように、私たちが自民党の食育調査会でまとめた次の計画への提言では、「大人の食育」を大きな柱としています。しかし私は、「こどもの時の食育」も、今まで以上に大切にしなければならないと考えております。

実は、子どもたちに栄養を教える「栄養教諭」の配置には地域によって大きな差があり、それが栄養教育の格差につながっています。この格差をなくすため、皆様のご協力をお願いし、全国に配置を進めていきたいと考えております。

そしてもう一つ、私が復興大臣を経験して痛感したのは、「災害時の食」の問題です。避難所の食事が貧しく、持病のある方が体調を崩して亡くなるという悲しい現実があります。医療と食を連携させ、災害時の食をしっかりと考えていくことが急務です。

今、米の問題が話題になっていますが、生産者が生活できる収入がなければ、米作りは続きません。栄養士の立場から申し上げますと、私たちの主食である米は、大変バランスの良い、



素晴らしい食物です。その価値を国民にしっかりと伝えていくことこそが、食育の基本ではないでしょうか。

この徳島大会が成功し、一人でも多くの方が食育に目覚めてくださることを心から願い、ご挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

来賓祝辞(概要)

徳島県議会議長 須見 一仁 氏

第20回食育推進全国大会が徳島で盛大に開催されますこと、県議会を代表し、心よりお祝い申し上げます。開催にご尽力された実行委員会の皆様、農林水産省、徳島県の皆様に、深く敬意と感謝を申し上げる次第でございます。

食育は、健康的な食生活を習慣にすることにとどまらず、命の尊さや地域の食文化、環境への配慮といった意識を育む重要な営みであります。現代社会では、ライフスタイルの多様化により、自ら健全な食生活を選ぶ力が一層求められております。

食育が果たす役割は、子どもたちの健やかな成長から高齢者の健康寿命の延伸まで、あらゆる世代に恩恵をもたらし、さらには地域のつながりや共生社会の実現にもつながるものとして、大きな期待が寄せられております。

この徳島大会を通じて、先進的な取組や知見が共有され、今後の食育が一層深まるきっかけとなることを期待しております。また、この後、表彰される皆様方、誠にありがとうございます。

私も県議会も、県民一人ひとりが食を通じて豊かで健やかに生きることができる社会の実現を目指し、これからも全力を傾注して参存です。



本大会のご成功と、皆様のますますのご健勝を心よりお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。本日は誠にありがとうございます。

みらいステージ

多目的ホール

来賓祝辞(概要)

消費者庁長官 新井 ゆたか 氏

みなさまこんにちは。私ども消費者庁は徳島に「新未来創造戦略本部」という拠点を置いておりますので、まずは地元の人として、皆様を心より歓迎いたします。

国会議員時代から食の問題に熱心に取り組んでこられた知事のおかげで、私たち消費者庁主催の国際シンポジウムは、昨日、多くの国からご参加いただき盛大に開催できました。この徳島から、国際的な結びつきを広げていきたいと考えております。

私は、食育の役割は「つなぐ」ことにあると考えております。1つ目は、食が私たちの体と栄養を「つなぎ」、健康と活力の源となること。2つ目は、家族や職場での食事が、人と人を「つなぐ」コミュニケーションのツールとなること。そして3つ目は、食を通して、消費者と生産者を「つなぎ」、作り手への感謝の気持ちを育むことです。これこそが食育の大きな力ではないでしょうか。

私どもが推進する「エシカル消費」も、まさにこの考え方につながります。例えば、お米一粒、野菜一つに込められた生産者の方々の夏の苦労を思えば、「もう少し高く買っても良いのではないか」と、その背景に思いを馳せることができます。

今、世界中で健康寿命への関心が高まっています。日本の食育は、世界に貢献できる部分が非常にたくさんあります。今



回、多くの国からご参加いただいているこの徳島大会は、まさに「世界をつなぐ食育」の、記念すべき最初の大会、その起点となるに違いありません。

最後に、食育に大変強い思いで尽力された故・服部幸應先生の思いを原点に、この食育の運動が徳島から、そして世界へとますます発展していくことを祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

主催者紹介

※登壇者のみ、挨拶者以外

農林水産省 消費・安全局長 安岡 澄人

来賓紹介

※登壇者のみ、挨拶者以外

参議院議員 広田 一 氏

第9回食育活動表彰審査委員長 中嶋 康博 氏

食育推進評価専門委員会座長 武見 ゆかり 氏

祝電

衆議院議員 堀内 詔子 氏

参議院議員 中西 祐介 氏

衆議院議員 仁木 博文 氏

自由民主党幹事長 森山 裕 氏

視察いただきました。



第9回食育活動表彰表彰式

6月7日(土) 10:40~11:10

農林水産省はボランティア活動、教育活動または農林漁業、食品製造・販売等その他の事業活動を通じた食育の取組を対象として、その功績を称えとともに、その取組の内容を広く国民に周知し、食育を推進する優れた取組が全国に展開されていくことを目的として「食育活動表彰」を実施しています。

今年度は、応募のあった個人・団体のうち、特に優れていた5団体に「農林水産大臣賞」、15団体に「消費・安全局長賞」、5団体に「審査委員特別賞」を授与しました。



受賞者一覧

農林水産大臣賞	ボランティア部門	食生活改善推進員の部	六戸町食生活改善推進委員会[青森県]
		食育推進ボランティアの部	北海道文教大学食育アイドルプロジェクト「えにわっ娘」[IX-ALICE (イザリス)] [北海道]
	教育関係者・事業者部門	教育等関係者の部	養牛部 (神奈川県立相原高等学校) [神奈川県]
		農林漁業者等の部	NPO法人棚田LOVERS [兵庫県]
消費・安全局長賞	ボランティア部門	企業の部	日本ハム株式会社[大阪府]
		食生活改善推進員の部	伊豆市健康づくり食生活推進協議会[静岡県]
			宇治市食生活改善推進員協議会「若葉の会」[京都府]
			知多市健康づくり食生活改善協議会[愛知県]
		食育推進ボランティアの部	持続可能な農業をやってみよう【食育】プロジェクトチーム (東海学院大学) [岐阜県]
			横須賀地区栄養士連絡協議会[神奈川県]
			富津市食生活改善サポーターの会[千葉県]
			尾鷲市・尾鷲市教育委員会[三重県]
	教育関係者・事業者部門	教育等関係者の部	NESラボステーション(立正大学法学部社会学・教育学ゼミナール) [東京都]
			特定非営利活動法人まちの食農教育[徳島県]
			東京都農業協同組合中央会[東京都]
			JA糸島女性部[福岡県]
審査委員特別賞	ボランティア部門	食生活改善推進員の部	弘前市食生活改善推進委員会[青森県]
		食育推進ボランティアの部	与那国町食育ボランティア[沖縄県]
	教育関係者・事業者部門	教育等関係者の部	宮城学院女子大学 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 舛井ゼミナール[宮城県]
			みつばちBunBun クロスケの大原野げんき畑[京都府]
		農林漁業者等の部	みつばちBunBun クロスケの大原野げんき畑[京都府]
		企業の部	秋田ノーザンハピネッツ株式会社[秋田県]
	ボランティア部門	食生活改善推進員の部	弘前市食生活改善推進委員会[青森県]
		食育推進ボランティアの部	与那国町食育ボランティア[沖縄県]

みらいステージ

多目的ホール

審査委員長講評(概要)

第9回食育活動表彰審査委員会 委員長 中嶋 康博 氏

審査委員会を代表いたしまして、私から講評を述べさせていただきます。

第9回食育活動表彰では、全国の都道府県から推薦されました196件を対象に審査を行い、その中から特に優れた25の団体・個人の皆様に表彰することとなりました。受賞された皆様に、心よりお祝い申し上げます。

審査にあたりましては、「先進性」、「継続性」、「有効性」、「波及性」、そして「実践性」といった5つの観点に加え、対象活動が第4次食育推進基本計画の3つの重点課題の効果的な解決に資するものであるか、更に地域の食の循環全体における、自らの活動の目的や目標を明確にし、企画、実施、評価に関して地域との連携を踏まえて活動を進めているか見てまいりました。いずれの活動も、食育の課題に真摯に取り組まれるもので、私たち審査員一同、大変学ばせていただきました。特に、今回受賞された皆様の活動に込められた「熱量」には、大変感動を覚えました。

皆様の取組を拝見し、今後の食育活動を推進する上で重要だと感じた工夫点が5つありました。それは、「関心を持つきっかけを無理なく作る」「自分事として参加する気にさせる」「本物が持つ力を十二分に生かす」「実践者自らが気づく機



会を設ける」、そして「体を動かす」ということです。食育活動を実践する皆様は、いわば食育を展開する「場」であり、食育情報を届ける「メディア」でもあり、その手法は日々進歩し、ますますバラエティー豊かになっていると感じます。新しい時代に向けた食育が本格化していることを、今回の審査でつくづく感じたところです。

この表彰をきっかけに、全国でさらに新たな食育への挑戦が生まれることを祈念しております。受賞された皆様、本日は誠にありがとうございました。

阿波おどり

6月7日(土) 11:17~11:27

徳島学生合同連

「四国大学連」、「徳島大学雷連」、「徳島文理大学連」、「鳴門教育大学鳴響連」、徳島県内4大学の阿波踊り連総勢33名(踊子24名、鳴物9名)による特別編成にて、女踊り、法被踊り、男踊り、総踊りを実施。

